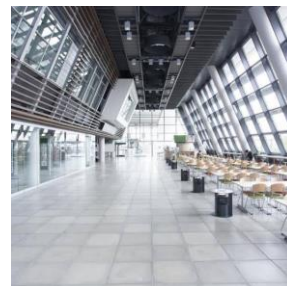


# 5号館M Commons

- スクールバス乗降場や文化系部室、宿泊施設、多目的ホール等を備えた複合施設です。
- 「M Commons」とは、松山の「M」、また山をイメージした「M」と、「共同の場所」を意味する「Commons」を合わせたネーミングです。



## 「スクールバス」

- キャンパスに通う学生の足として高坂駅、鴻巣駅からそれぞれ大学を往復する無料バスを運行しています。来校される方も利用いただけます。（久喜便は有料、バス停は60周年記念講堂脇）
- バス利用の際に「お願いします」「ありがとうございました」など多くの学生が挨拶している姿に、他大学から来客される方が驚くそうです。

## 「Mフロント」

- 掲示板があり授業の連絡等が掲示されています。（近年ではDBポータル使用に伴い、減少している感じがします）
- 喫茶コーナーでは、平日に軽食・飲み物やお弁当を販売しています。
- デジタルサイネージ（電子看板）で、6面の画面で大学のPR映像を流しています。このようなデジタルサイネージは3号館にも設置されています。
- ミーティングや待ち合わせ、休み時間の飲食等、学生がさまざまな用途で自由に利用できる空間です。
- ガラススペースは、コミュニティーギャラリーとして使用されています。パーティーは移動することができるので、書道・美術などの作品発表や展示、地域活動に活用されています。



## 「Mホール」

- 学生が自由に使えるスペースで、使用管理窓口は学生自治会が行なっています。
- ダンス、演劇、音楽などの練習に使用されています。
- 高さ60センチのステージが出てきて、鏡もあり便利です。



- ホール入り口横の銅板碑「宮崎淳みやざきあつしさんを讃えて」は、平成25年5月に設置されました。2011年10月に発生したトルコ東部大地震の被災者救助活動中に滞在していたホテルが倒壊したために、41歳で命を落とされました。大分県出身で、法学部政治学科の卒業生でNPO法人『難民を助ける会』職員でした。

## 「民族資料館」

- 国際関係学部が東南アジアの現地で収集してきた農具や楽器等を展示しています。
- 大きい壺は韓国のキムチを漬ける壺です。

## 「Mロッジ」

- 晴れた日は筑波山などが見え、ロケーションが良いと評判です。保護者も利用することができ、料金は青桐会員2500円、学生1000円です。申し込みは、東松山管理課です。
- 7階 最大6人が泊まれる部屋が8部屋あります。
- 6階 2人が泊まれる部屋が12室あります。真ん中に壁があり、個室風です。
- 5階 シングルルームが17部屋あります。
- 家具、ユニットバス、トイレ、テレビ、冷蔵庫の設備が整っています。